

## 海外事務所 だより

# 二〇二二年ロンドンオリンピック・ パラリンピック大会の準備動向

ロンドン事務所参事役 引場 信治（東京都派遣）

ロンドン事務所

二〇二二年オリンピック・パラリンピック大会開催まであと二年に迫り、今ロンドンでは交通機関の整備や会場の建設工事が着々と進んでいます。市内ではオリンピックのプレイベントや競技会場ツアーなど数多くの催しが行われ、開催気運をいっそう盛り上げています。

本稿ではロンドンがオリンピックで目指している理念や課題、そして次世代への取組などについて概観していきます。

## ロンドンオリンピックが 目指すもの

ロンドンがオリンピックを通して実現しようと考えている理念としては、まず次の五つをあげることができます（文化メディアスポーツ省発表「五つのプロミス」）。

①英国を世界をリードするスポーツ大国と

すること

②東ロンドンを変革すること

③若者の世代をインスパイアすること

④オリンピックパーク（注（以下「主会場」という。）を持続可能な生活の青写真とすること

⑤英国が、住み働き、ビジネスをするのに創造的で、誰もが参加でき、人々を歓迎する場所であることを、内外にデモンストレートすること

（注）オリンピックパーク…広義ではオリンピック会場予定地全体のエリアを指すこともあるが、ロンドンでは主要な競技施設（オリンピックスタジアム、水泳センター、選手村、国際放送センターPC、メインプレスセンターMPCなど）が集中的に建設される東ロンドンのストラットフォードを中心とした一帯を指す。

これらの理念は次のように具体化されています。

①英国はオリンピックのみならず、近年大きなスポーツ大会の誘致に躍起になっ

います。二

〇一〇年ゴ

ルフライダ

ーカップに

続いて、最

近では二〇

一五年ラグ

ビーワール

ドカップ開催も決定し、さらに二〇一八年サッカーワールドカップの招致もねらっています。

②低所得者層の多い東ロンドン地域の復興と再開発はロンドンの永年の課題でした。主会場をあえてストラットフォード地域に置くことで、大会を契機に東ロンドンを自然環境に配慮した近代的な一大都市圏に変貌させ、ロンドンの持続的な発展を図ろうとしています。

③子どもや若者を対象にした学校や地域の



↑トライアスロンワールドチャンピオンシップシリーズ（オリンピック会場の一つハイドパークにて）

教育プログラムが立ち上がり、また全英各地で、文化オリンピックアードと称した芸術文化イベントや、プールの無料開放で水泳を奨励するスポーツ振興策など、若者をいわば「元気にする」ための様々なプロジェクトが実施されています。

④サステイナビリティ（持続可能性）はロンドンオリンピックにとってもキーワードの一つです。大会後もその効果を持続的に次世代へ継承していこうとする考え方が、（後述「オリンピックのレガシー」参照）

⑤これは、ロンドンがオリンピックの招致でパリに勝った際のアピールポイントの一つだったとも言われているものです。オリンピック大会前後の長期間にわたり、経済や文化、生活の面においても世界の人々の目を英国へ惹き寄せ、都市の活性化を図ろうとするものです。

以上の他にも、ロンドン大会の特色としては、歴史上初めて、計画の段階からパラリンピックとともに準備が進められ、同じエンブレム（ブランド）が使用されたこと、また誰もがアクセスでき、人々がこれまでにならぬような接点を持つて可能性を追求できる大会を目指すとしたことがあげられます。

そのためロンドンでは、地域の子どもから高齢者、障害を持つ人々、様々な国籍や文化を持つ人々の意見を大会前後の計画づくりに積極的に反映させる取組を進めていて、大会期間中七万人以上のボランティアを参加させ、また三年前から全英各地で異文化

交流のための文化オリンピックアードなどを展開しています。

## ロンドンが抱える問題

ロンドンオリンピックの準備は全体としては順調に進んでいるように見えますが、関係者の一番の心配の種は未曾有の経済停滞に苦しむ中での巨額の公的資金の拠出と（割合は低いものの）民間資金の調達の高難度です。

オリンピック施設の整備費は総額で約九三億ポンドと見積もられており、そのほとんどを公的資金で賄うこととしています（中央政府六四％、ロンドン市及び開発公社二二％、宝くじ等二三％）。しかしその後IIPC、MPC、選手村への追加拠出を迫られたため、政府は九億ポンドの予備費を一部取り崩さざるを得ず、対応に苦慮しています。

選手村建設を例にとると、建設予算は招致決定当時は、政府が約半分、残りをLand Lease社が自ら資金調達する計画でしたが、その後二〇〇七年時点で政府が五〇％、同社が三〇％、公的団体である住宅組合Housing Associationが二〇％拠出することとなり、二〇〇九年時点では政府が八〇％、住宅組合が二〇％を負担する枠組に変更され、実質的に民間からの資金調達はゼロとなりました。

また、ロンドン開発公社LDAが東ロンドンのオリンピック用地購入資金計画の読みの

甘さから、総額で一億六千万ポンド（二五六億円）から最大八億ポンド（一二八〇億円）にも上る債務を抱えることとなったことや、工事作業員を派遣する責任者が賃金の上前をはねていたことも最近になって発覚し、開発に携わる機関の管理監督や内部監査の問題もここへ来て浮上してきています。

他にも、住民からの苦情、地下鉄整備の遅れなどがあげられます。

主会場建設に伴う騒音や粉じん被害についての苦情が当初、メディアでも盛んに取り上げられ話題を呼びました。かつて時計工場など幾つかの産業プラントが集積していた地域なので、一時は低レベルの放射性物質も見つかり、住民の不安が高まっていました。しかしその後最新技術を用いた土壌洗浄装置の導入などにより、今では土地改良処理はほぼ完了し落ち着きを取り戻しています。

交通機関の整備では、ロンドン中心部から主会場までを結ぶ新型高速鉄道ジャベリンJavelinについては順調に進んでいるものの、観客を運ぶもう一つの主要幹線である地下鉄ジュビリーラインの改良工期が二度ほど



↑ 建設中のメインスタジアム（ストラットフォード）©ODA

延長されたり、実際に工事を請け負う「Tines社」とロンドン交通局との契約交渉が金額を巡って難航し、東ロンドン線やDLR線の延長工事への影響が懸念され、五二の駅の改良工事も一時棚上げされるなど、資金計画や技術力の脆弱さも目立ち始めています。

## オリンピックのレガシー

近年、国際オリンピック委員会は、大会後の施設の有効利用やオリンピックがもたらすムーブメントや理念をいかに後世に残すか（レガシー）を明らかにするよう大会主催者に強く求めています。

そのためロンドンでも、ハード、ソフト両面にわたり、オリンピックの遺産の発展的な継承をアピールしています。以下にその一例をあげます。

### ①住宅、公園、水路、商業施設

選手村は大会後、民間住宅に転用され、新たに二八〇〇戸の家族住宅が提供されます。その半分が低廉な社会住宅。主会場全体と周辺では約一万五千戸の住宅が建設され、パーク全体が巨大な公園に生まれ変わり、市民に憩いの場を提供。河川も整備され、ピクトリア公園など近隣エリアの複数の公園をあわせて改良することで、釣りやポート、ハイキング、サイクリングなど様々なレジャーの場に。また、駅前を中心に巨大な商業施設やビジネス街がオープンし、東ロンドンの一大商業圏が形成されます。

### ②競技施設、エネルギーセンター

世界クラスの競技場、特に五つの恒久施設が市民やエリート選手のために開放されます。

\*メインスタジアムは八万席から二万五千席に縮小し、多用途の競技施設に。

\*アリーナ3はバスケットやバレー等のインドアスポーツや文化イベント会場に。

\*水泳センターは最大三五〇〇人収容の二つの五〇mプール、一つのダイビングプールに。

\*イートンマナーはインドア、アウトドアのテニスセンターやホッケー会場に。

\*ベロパークは六〇〇〇人収容のBMX、ロードサイクルサーキット、マウンテンバイク施設に。

\*また、ウッドチップを用いたバイオマスボイラーや高効率ガス発電設備など環境に配慮した最新設備を備えたエネルギーセンターは、大会後も地域のエネルギー供給源として継続的に利用されます。

### ③交通機関の整備

ユーロスター新駅の開設、ロンドン中心部と結ぶ新型高速特急の開通や地下鉄の輸送力アップに加え、三五kmに及ぶ歩道・サイクリング道路の整備、一四kmの新道建設や多数の橋の建設等により、交通網が飛躍的に整備されます。

### ④雇用の創出

大会後もIPC、MPCの転用による雇用センターの建設やPodium Skills Londonと呼ばれるカレッジや大学、技術訓練機関

と連携した職業訓練の実施により市民の職業能力を高めるとともに、地域開発により新たな雇用が創出されます。

### ⑤教育やコミュニティスペース

選手村エリア内に建設されるオペレーションセンターは、大会後は教育キャンパス Chobham Academy として開校し、幼稚園、小学校、中学高校の生徒約一八〇〇人が学び、舞台芸術や英語を専門とした大学も併設されます。さらにスタジアムには新たに三つの新しい小学校と一つの中学校も建設され、エリア全体で図書館、託児所、高齢者クラブ、宗教施設、診療所、集会所などのコミュニティスペースがオープンします。

## 国家プロジェクトとしてのオリンピック

ロンドン市長は、今度のオリンピックは従来になく環境に配慮したモデルとなる大会にしたいと最近盛んに宣伝しています。ウォーキング&サイクリング計画もその一環です。



↑オリンピック会場市庁舎「Explore」 © LOCOS

まさに国をあげた巨大プロジェクトとして、単なる世界最大のスポーツの祭典にとどまらず、異文化交流の促進と教育、経済、社会全体に様々な良い変化をもたらすことを目標に、ロンドンオリンピックは課題を抱えつつも確実にその歩を進めています。

海外生活  
だより



ロンドン事務所

最高！  
BBCプロムス、

ロンドン事務所 所長補佐

神林 真美香 (総務省派遣)

BBCプロムス

まだロンドンの冬を経験したことのない私には、ロンドンの夏のありがたみについて実感をもつて語ることはできませんが、いろいろな方からロンドンの冬は暗くて寒いと脅されたり、九月も中旬を過ぎてかなり涼しくなってきたり、九月も中旬を過ぎてまだ夏だと言っているにもかかわらずまだ夏だと言っている方に会ったりするうちに、短い夏を存分に楽しみたいというロンドナーの思いを感じずにはいられません。仕事帰りにパブの外でビールを飲んだり、演劇の野外公演を見に行ったり、ロンドナーはそれぞれ思い思いのかたちで限られた夏を満喫しようとしています。

そんなロンドンの夏の風物詩とも言えるイベントの一つに、BBCプロムス (BBC

Proms) があります。幸運なことに誘ってくださる方があり、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートに行ってきたので、ロンドナーの夏の楽しみ方の一つとしてご紹介します。

今年で二五回目となるBBCプロムスは、イギリスの公共放送局BBCが主催する音楽祭で、毎年七月中旬から九月中旬までの二カ月間にわたり連日様々なコンサートが催されます。その最大の特徴は、わずか五ポンド (一ポンド約一五五円) で世界的に有名な音楽家や交響楽団の演奏を聴くことができることです。プロムスとは、コンサートホール内の客席以外の通路等のスペースを意味するプロムナード (promenade) という単語に由来する名称で、文字通り、五ポンドのチケットで鑑賞する場合には席はなく立見となります。しかし、プロムスのメイ



↑ロイヤル・アルバート・ホール

ン会場であるロイヤル・アルバート・ホールでは、立見席は客席間の通路ではなく、ステージのすぐ前、真正面の最も良い場所に設けられます。日本では通常S席、A席とされるような場所が、最も安い立見席として売り出されるわけです。

そもそもこのプロムスは、クイーンズ・ホールの支配人であったロバート・ニューマンの、クラシックコンサートの敷居を下げ、より多くの聴衆により多くの演奏を届けたいという思いから始められました。現在では、プロムス期間中のロイヤル・アルバート・ホールでは連日、またそれ以外の会場でも七〇を超えるトークショーや映画など音楽関連のイベントが開催されており、立見席以

外の通常の客席であっても、とても安い価格で気軽に世界最高峰の音楽を楽しむことができます。ウィーン・フィルを観に行ったら私の席も、ステージの斜め後ろから見下ろす角度のかなりステージに近い席で、しかもベルリン・フィルと並び世界一の実績を誇るウィーン・フィルのコンサートであったにもかかわらず、わずか二六ポンドでした。

## ロイヤル・アルバート・ホール

コンサート当日は、まず会場となるロイヤル・アルバート・ホールの建築を楽しもうと、コンサートの始まる一時間以上も前に到着して、ホールの外を二周しました。お腕をひっくり返したような形のこのホールは、芸術と科学を振興するための中核となるホールとして、一八七〇年に建設されました。ロンドンの中心部サウス・ケンジントンのエリアにあって、北側のハイド・パーク、南側の王立音楽大学の間に建てられています。このエリアには他にも博物館や教育機関が多く集まっており、ロイヤル・アルバート・ホールは、それら周辺の建物とマッチしながらも、ひと際その伝統とロンドンの歴史を感じさせる素晴らしい建物です。

## 音楽への情熱

ホールを二周している途中で、当日券である五ポンドのチケットを求める長い行列を見る

つけました。プロムスの趣旨からしてももちろんドレスコードはありません。行列に並んでいる人を見ると、約二時間立ち放しで演奏を聴くということもあり、カジュアルな服装をした若い人が多いように思われました。その一方で、席で鑑賞する人の方は比較的フォーマルな服装をした人が多く見受けられました。ところがコンサートが始まって驚いたことは、立見席の観客が非常に熱心に演奏に聴き入っているということでした。長時間立ち続けるのは疲れるでしょうに、五ポンドより高い金額を払って客席で聴いている観客以上に熱い眼差しをステージに注いでいます。最前列で立っている人たちは、一つの音も聴き漏らすまいとするかのように身を乗り出しながら、微動だにせずに演奏に聴き入っていました。ステージのすぐ前で演奏を聴くために、わざわざ五ポンドの当日券を買い求める人も多くいるそうで、その音楽に対する情熱の大きさには驚かされました。



↑ステージの前に作られた立見席

会場では音楽振興のための募金も行われており、かなりの金額が集まっていたことから、観客の多くが、チケット代が安い分多くの寄付をしているように思われました。

## 終わりに

当日の演奏曲目は、ハイドンのロンドン交響曲の一つである第九七番ハ長調と、シュベルトの最後の完成された交響曲である第九番「ザ・グレート」の二曲でした。ロンドン交響曲は、オーストリアの音楽家ハイドンが初めてロンドンを訪問した際に作曲した交響曲、またシューベルトの「ザ・グレート」という名前は、イギリスの出版社によって付けられたタイトルという説もあり、ウィーン・フィルのロンドン公演ということでイギリスに関連する曲目が選曲されたようです。ウィーン・フィルの演奏は本当に素晴らしく、特にハイドンのロンドン交響曲には、ロンドンの街を楽しく軽快に歩くような明るい旋律があり、それが自分の現在の心情とも重なり、体リズムをとりたくなるような気持ちで楽しむことができました。

演奏後には、感動で胸がいっぱいになりながら、手が腫れ上がるのではないかと思うくらい拍手を送り続けました。音楽というのは人々の心を豊かにしてくれる素晴らしいものだと思ふと同時に、世界一流の素晴らしい音楽を一人でも多くの人に届けようとするBBCプロムスというイベントは、最高のイベントだと思いました。そしてまた、BBCプロムスを支えているロンドンナーの音楽に対する情熱も世界一流です。また来年も、ロンドンナーとして参加したいと思っています。